



分科会風景

分科会主旨

フィールドワークで「界わい景観整備地区」に指定されている三条通を見学した。

近代建築群が利用形態を変えながら数多く残っているまちなみを通して、これからの建築物の再生活用について考察した。また京都府建築士会がどのように関わったのか活動の歩みをお聞きし、それぞれの地域で取り組んでいる話を交わした。地域で抱えている課題と重ね合せながら考察することができ、また活力を得ることができた。

フィールドワーク

主に外観見学であるが、ゴシック文字は内部も見学した。

1928ビル(旧毎日新聞京都支局)・旧家邊徳時計店・日本生命三条ビル・SACRAビル(旧不動貯蓄銀行京都支店)・京都府京都文化博物館(旧日本銀行京都支店)・中京郵便局(旧京都中央郵便局)・新風館(旧京都三条電話局)・文椿ビル(旧次田染織)・みずほ銀行京都支店(旧第一銀行京都支店)

その他、三条通から時々それながら、新しい建築や古い町屋を生かした商店なども見学した。



フィールドワーク風景

D分科会 「建築物の再生活用」

司会 田中 みちよ (新潟県建築士会)
 アシスタント 山本 晶三 (京都府建築士会)
 荒木 和彦 (京都府建築士会)
 出席者 38名(他 近畿スタッフ4名)

三条通の近代建築について

～その再生活用と京都府建築士会のこれまでの取り組み～

見学した建物をスライドで振り返り、生い立ちや経過を知る

明治～昭和初期に建てられた近代建築は、金融や企業の用途であった。ディテールに建築家の思いや遊び心が表れている。ほぼそのままの形態で再生活用している例があるとともに、外部だけを残し内側に当たるエリアは斬新な商業施設に造り変え成功している事例もある。

京都の景観政策と京都府建築士会の三条通への取り組みを聞く

18年前の三条通は、車が溢れ電柱や看板が乱雑。週末はほとんど人通りはなく町屋と近代建築が共存する独特の雰囲気。7町内会があるが金融や企業の通りなので隣接町内同士の交流はなかった。平安建都1200年でのプロジェクトで地元呼びかけその後まちづくり協議会が発足。壁面線を揃えるなどまちなみの美しさを考えるにあたり、通りの建物を通して町内の交流が生まれた。建築士会が地域コミュニティのきっかけを作りパートナーとなった。

まとめ

・建物は使われてこそ生き生きとする・コストがペイすることも大事・過疎も問題・建築は思想だ・まちづくりは人づくり・オーナーをその気にさせる・次の世代を見据えたものづくりを など参考となる意見が多数交わされた。また地域コミュニティに対する建築士会の役割と大きな可能性を感じた。